

科目ナンバリング		U-LAS62 10005 PJ17							
授業科目名 <英訳>	森里海連環学実習Ⅲ：暖地性積雪地域における冬の自然環境と人の暮らし Field Study on Connectivity of Hills, Humans and Oceans III :Natural Environment and Human Society in Winter Season of Warmtemperate Snowfall Region				担当者所属 職名・氏名	フィールド科学教育研究センター 准教授 石原 正恵 フィールド科学教育研究センター 講師 坂野上 なお フィールド科学教育研究センター 講師 松岡 俊将			
群	統合科学科目群			分野(分類)	森里海連環学			使用言語	日本語
旧群	B群	単位数	1単位	時間数	30時間	授業形態	実習（対面授業科目）		
開講年度・ 開講期	2024・ 後期集中		曜時限	集中		配当学年	全回生	対象学生	全学向
[授業の概要・目的]									
芦生研究林の位置する京都府北東部は暖地性の積雪地域である。この地域の冬の自然環境を体感する。同時に冬のフィールドにおいて生物(人間も含む)の活動がどのように制限されるか、またその制限に対する生物の対応や、積雪の観光利用など人間社会の適応について理解を深め、フィールド調査の基礎となる安全で有効な活動方法を習得する。地球温暖化などを含め、新たな森と人とのつながりについて考える力を身につける。									
[到達目標]									
雪や氷を定性・定量的に評価する方法を学ぶ。 冬のフィールドにおいて生物(人間も含む)の活動がどのように制限されるか、またその制限に対する生物の対応について理解を深める。 冬のフィールド調査の基礎となる安全で有効な活動方法を習得する。									
[授業計画と内容]									
2025年2月18-20日（火 - 木）に、芦生研究林において合宿方式で行う。 予定(天候・雪の状況等によって変更の可能性あり) 第1日：芦生研究林への移動とオリエンテーション 14:00：オリエンテーション。カンジキを装着して足慣らし。宿舎周辺の雪観察。夜、講義。 第2日：芦生研究林における冬の自然環境 終日：内杉谷又は由良川本流においてフィールドでの自然観察。 第3日：積雪と人間社会 終日：地域社会のステークホルダーと関わり、積雪や冬期ならではの暮らしとその課題を学ぶ。									
[履修要件]									
募集定員は13名。									
[成績評価の方法・観点]									
1．実習中の発言 30点 2．調査方法の習得状況 30点 3．レポート 40点									
森里海連環学実習Ⅲ：暖地性積雪地域における冬の自然環境と人の暮らし(2)へ続く!!!									

[教科書]

教科書は使用しないが、芦生研究林や調査法に関連する資料を配付する。

[参考書等]

（参考書）

石原正恵・赤石大輔・徳地直子 『「大学の森」が見た森と里の再生学 京都芦生・美山での挑戦』
（京都大学学術出版会, 2024）

（関連URL）

<https://fserc.kyoto-u.ac.jp/wp/ashiu/2023/03/15/3296/>(過去の実習の報告)

[授業外学修（予習・復習）等]

事前にビデオ、資料などを示す。集中講義の最後に全体を通してのレポートを課す。

[その他（オフィスアワー等）]

詳細は12月初旬に発表の募集要項を参照。日程調整等の連絡は基本的にメールで行います。1月下旬に説明会を開催するので、必ず参加すること。そのうえで履修登録を行う。定員を超える応募があった場合は申し込み順とする。4回生の履修については、卒業に必要な単位としては成績判定が各学部の締め切りに間に合わない可能性があるので要注意。

特別な予備知識は必要としないが、冬期の積雪地域での実習になるので防寒具の準備は必須である（詳細は説明会にて）。また、野外での講義・実習がメインになるので各自学生教育研究災害傷害保険等の傷害保険に必ず加入のこと。食費(実費(自炊))・宿泊費(¥550 2泊分)・交通費(バス代往復 ¥2160)は各自負担。